

梅ヶ島 山の声

～ 梅ヶ島出張所通信 ～



コノハスっくん

土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害は、主に雨などが原因となって発生します。梅雨時は雨が長く土砂災害が発生しやすい時期です。

そこで、毎年、6月を「土砂災害防止月間」として、土砂災害防止について理解と関心を深めて頂くため、国、県、市が連携して各種イベントを実施します。

今号は、「土砂災害防止月間」特集号を企画しました。近年は異常な集中豪雨による被害が増えていますので、雨が降りだしたら気象情報などに注意しましょう。



梅ヶ島出張所でも横断幕を掲示(右は雨量表示盤)

青葉シンボルロードで「みんなで防ごう土砂災害」を開催します～6月21日(土)～

土砂災害の怖さや、砂防事業の重要性を市民の皆様へ理解していただくため、6月21日(土)に静岡市葵区の青葉シンボルロードで「みんなで防ごう土砂災害」を開催します。

この行事は、平成8年から「砂防フェスタしずおか」として開催し、国土交通省静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、静岡県、静岡市、静岡地方気象台が共催して、土砂災害防止に関する模型やパネルを展示します。ロッシーも応援に来る予定なので皆様も是非お出かけ下さい。

土砂災害防止に関する絵画・作文の募集(6月1日～9月15日)

今年度も土砂災害の恐ろしさや土砂災害防止の重要性を伝えるため、絵画・作文を募集します。募集要領については、各小中学校へ送付されますが、下記でもご覧いただけます。

- 【募集対象】小中学生 【応募期間】6月1日(日)～9月15日(月)
- 【応募方法】応募者の学校名(ふりがな)、学年、氏名(ふりがな)を明記
- 【応募先】〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
 静岡県交通基盤部砂防課 土砂災害対策班
 TEL(054)221-3044 FAX(054)221-3564

詳細は、砂防課ホームページからもご覧いただけます。
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



土砂災害の種類・特徴・前兆現象を確認しましょう

土砂災害には前兆現象があります！！

土砂災害	土石流	地すべり	がけ崩れ
イラスト			
特徴	山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などで一気に下流へ押し流される現象。時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅する。	斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大きいと甚大な被害が発生。	雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちる時間が短いため、人家の近くでは逃げ遅れ、人命を奪うことが多い。
前兆現象	① 山鳴りがする ② 川の水が濁り、流木が混ざる ③ 腐った土の匂いがする ④ 雨が続くのに川の水位が下がる ⑤ 立木が裂ける音がある ⑥ 石がぶつかり合う音が聞こえる	① 地面がひび割れ・陥没 ② がけや斜面から水が噴き出す ③ 井戸や沢の水が濁る ④ 地鳴り・山鳴りがする ⑤ 樹木が傾く ⑥ 亀裂や段差が発生	① がけにひび割れができる ② 小石がパラパラと落ちてくる ③ がけから水が湧き出る ④ 湧き水が止まる ⑤ 湧き水が濁る ⑥ 地鳴りがする

土砂災害防止に関する作文「乗りこえた喜び」梅ヶ島中学校 藤井秀峰君

1年前になりますが、「土砂災害防止に関する絵画・作文」の募集(作文の部)に応募された梅ヶ島中学校の藤井秀峰君(応募当時2年生)の作文が見事に静岡県交通基盤部長賞を受賞されましたので紹介いたします。梅ヶ島の人々の土砂災害との闘いの日々がひしひしと伝わってくる素晴らしい作文だと思いました。

「乗りこえた喜び」静岡市立梅ヶ島中学校 2年 藤井 秀峰

僕が暮らしている梅ヶ島は、土砂災害が一年に一回は必ず起こる。去年は九月下旬に大型の台風が来て、県道が崩れた。この県道は今でも崩れたままだ。今年の六月十四日には、梅ヶ島と静岡市街を結ぶたった一本の県道が再び崩れた。すぐ修復し始めたが、その後来た台風により、修復したその道がまた流されてしまった。そして六月二十三日には、道のすぐとなりにある山が崩れて、また道がふさがってしまった。この時、電柱も倒れてしまい、梅ヶ島は電気が一時使えなくなった。その日は、電気が使えなかったため、電気製品はもちろん、水をくみ上げるポンプも動かなかったため、水も使うことができなかった。電気が復旧したのは夜十時だった。昼の一時くらいから、約九時間ずっと電気が止まっていたことになる。

土砂災害が起きた道は、梅ヶ島と町をつなぐたった一本の道なのだ。そのたった一本だけの大切な道が、二年間で三度も崩れてしまったのだ。バスや給食を運んでくるトラックが来なくなり、電気も来なくなり、とても不便な生活となった。たった一本の道が崩れてしまうことが、これほど大変なことなのだとこのことを痛いほど知った。

大きな土砂災害があったけれど、過去にも同じように大きな土砂災害があったのか、興味を持ったので、調べてみた。すると驚くべきことが分かった。

梅ヶ島には、大谷崩れといわれる山がある。この山は、千七百七年に起きた大地震と大洪水が原因で大きく崩れた。土砂は一万二千トンという、想像もできない莫大な量が出たそうだ。この山が崩れたことにより、新田、赤水などいくつかの集落も生まれた。しかし、人が土砂に埋もれたり、家がつぶされてしまったりと、とても大きな被害が出た。

たった一本の道が崩れてもこんなに被害が大きいのに、大谷崩れのように大規模な土砂崩れが起きてしまったら、一体どうになってしまうのだろうか。僕には、全く想像できない。

梅ヶ島はこれ以外にも、過去にたくさんの土砂災害に襲われてきた。そして、そのたびにたくさんの被害にあってきた。そんなことを思うと、昔から梅ヶ島の人々は、土砂災害と戦って、そのたびに苦しみや苦労をいやというほど知って生きてきたのだと思う。

そのときふと僕は、東日本大震災のことを思い出した。この地震は大津波が町を流し、二万人以上の尊い命が奪われた。この地震をテレビの映像や新聞などで見ている、大きな自然の力を前に圧倒されながらも、それに負けないで生きていこうとしている東北地方の人々の気持ちが伝わってくる。

大谷崩れのような自然の力がいつ向かってくるかは、だれにも分からない。だからこそ、普段の心がけが必要だ。僕たちは自然の力を前に何もできないかもしれない。それでも、一つ一つの土砂災害に関心を持ち、自然災害が起きたときに、僕たちが生きていけるようにきたえるべきではないだろうか。

自然災害は本当にいつ起こるか分からない。一年後かもしれないし、一週間後かもしれないし、今日かもしれない。自然災害は急に起きるから、身構えて、さあ来いという感じにはできない。

だけど、いつ起こってもいいように準備することならできる。災害を想定して、もしも電気や水が使えなくなった時、どうすればいいかということを考えることならできる。

いざという時には、中学校でしている防災訓練も、防災グッズも、それからためている水も役に立つ。こういったことを日本中の全員がすれば、自然災害を乗り越えることができると思う。

自然災害後の生活はきっと厳しくなるだろう。しかし、その自然災害を全員で乗り越えることで、日本の自然災害はあまり恐ろしいものには感じないようになると思う。

編集後記

「土砂災害防止月間」特集号は如何でしたでしょうか。上記の藤井秀峰君の作文にあるように「たった一本の道が崩れても我々の生活に大きく影響する」「昔から梅ヶ島の人々は土砂災害と戦って苦しみや苦労をいやというほど知って生きてきた」「その自然災害を全員で乗り越えることで・・・」本当にそのとおりでと思います。皆さんも、土砂災害に備えて、「非常時持ち出し袋」の準備、避難地・避難経路の確認、家族の安否確認の方法などを御家族で確認したり、ご近所同士で声を掛け合うことも重要だと思えます。

その他、皆様からの情報やご意見を募集しますので、以下までお願い致します。

Tel: 054-269-2003、E-mail: http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/05_jigyuu/02_office/toiawase.html

